

登内時計記念博物館



多くの時計が 展示されています。館内には それぞれの時計の響きが 流れています。大理石を土台にして さらにダイヤモンドが 装飾された豪華な時計が多くあります。担当者の説明によると 日本は アメリカから時計の設計図をいただいて それを もとに さらに高度なレベルの時計を現代に 至まで開発してきていると ということです。



こちらの時計は 人間の骨格を表現していて そのように見えるので スケルトン時計と 呼ばれています。このタイプの時計は イギリスタイプの時計だと ということです。北イタリア 南ドイツが 時計の概念の発祥地だと 言われていると ということです。数百年も前につくられた時計がこちらの館内では 現在も 動いていることに驚かされます。



これらの時計は 和時計ですが 当時 西洋から伝えられたものです。これらの時計も 技師の技術力により 現在も動いています。数百年前の時計たちが 故障した時 修理する職人が ほとんど存在しないということです。近くで見ていると数百年前につくられた 時計とは 思えないほど 堂々と動いているので 感動します。



こちらの駐車場は広く 多くの車を駐車することができます。排気ガスが 植物にかからないように 駐車してほしいと 注意を促すように書かれています。植物だけでなく 人間にも優しい思いやりの気持ちを 忘れがちな日々に 気が付けただけの勧告にも 感動しました。時計の音色も担当者へお願いすると 聴かせてもらえます。